

作品の概要

東日本大震災で津波に流されず、海岸に残った一本の松。その松の回想で物語は展開していく。

■ 2011年3月11日のできごと

その日、海沿いの町では、いつもと変わらない穏やかな日常があった。漁具の手入れをする漁師。街で立ち話する主婦たち。教室の掃除をする小学生たち。

午後2時46分、宮城県沖を震源とする巨大地震が発生。その後、沿岸部を巨大津波が襲った。東日本大震災だ。防波堤を超え、次々と家やビル、工場、そして人々を飲み込んでゆく巨大津波。押し波、引き波を何度も何度も繰り返した大津波は、多くの人の命を一瞬にして奪っていった…

■ 津波が来た時の人々の避難行動

人々は津波警報が出たとき、すぐに避難したのだろうか？ 被災者800人を対象にした避難行動調査の円グラフ。すぐ避難した人は57%。しかし、ただちに避難せず家族を捜したり家に戻った人も41%に上った。過去の津波被害では、このように、ただちに避難しなかったために命を落としてしまったケースが圧倒的に多い。

■ 守れた命!ある町の小中学生の避難行動

津波に飲み込まれた、ある町の小学校では、子供たち全員が自らの判断で避難し、命を守る事ができた。子供たちは、どのような避難行動をとったのか、地震発生時から検証して行こう。

教室の掃除も終わりかけた時、小学生たちは、今までにない大きな揺れに襲われ、机にもぐって必死に身を守った。その後、この地震で教室のスピーカーは壊れ、子供たちに「津波発生」の指示も出せなくなった。しかし、この学校では地震発生時は津波を警戒、最上階に避難する事が決められていたため、子供たちは、まず、3階の教室に避難した。ところが、そこで、高台に走って逃げる中学生を目撃。即座に3階は危険だと判断し、校外に出て、中学生と行動を共にしたのだ。避難場所に到着した子供たち。でも、そこも危険だと感じて、高台へ、さらに高台へと逃げ、背後に

押し寄せる大津波から逃れ、全員無事だったのだ。

■ 津波襲来時の3つの約束

この町の小中学校では津波が襲ってきた時の3つの教えがあった。1つ、想定を信じるな。2つ、どんな時でも最善をつくす。3つ、率先避難者になる。この町の子供たちは、この避難三原則を守り通したのだ。

■ 大津波発生のメカニズムと津波の種類

ここでは地震、津波の起きるメカニズム、水深と津波の高さとの関係、津波の種類とその特徴について、実写や図解で詳しく解説する。

■ 自分の命は自分で守る

地震、津波に襲われる場所は学校とは限らない。ここでは町で、川のそばで、家の中で地震、津波に襲われたら、何が最善の方法かを分かりやすく語っていく。

監修 群馬大学大学院工学研究科教授  
広域首都圏防災研究センター長  
片田 敏孝

企画・制作 高木 裕己 藤井 正和

脚本・監督 高木 裕己

アニメ演出・原画 菊田 武勝

音楽 加藤 由美子

制作・著作 (株)映学社

(株)リバティアニメーションスタジオ

■ ライブラリー価格

65,000円(本体価格)

■ 学校価格(小学校のみ)

33,000円(本体価格)

■ VHS・DVD【14分】

■ 2012年制作